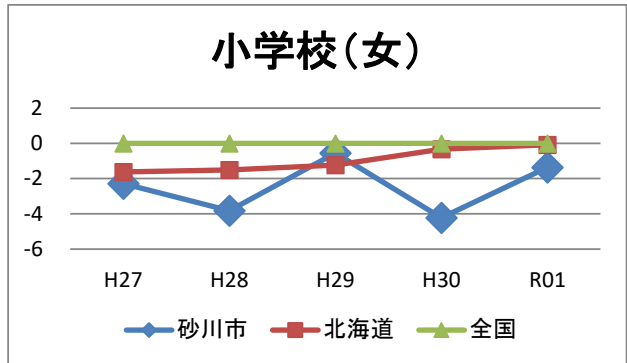
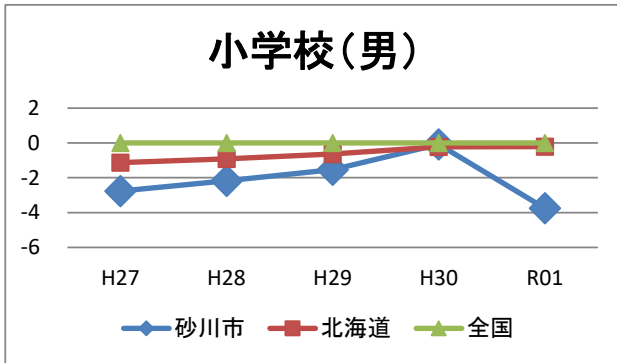


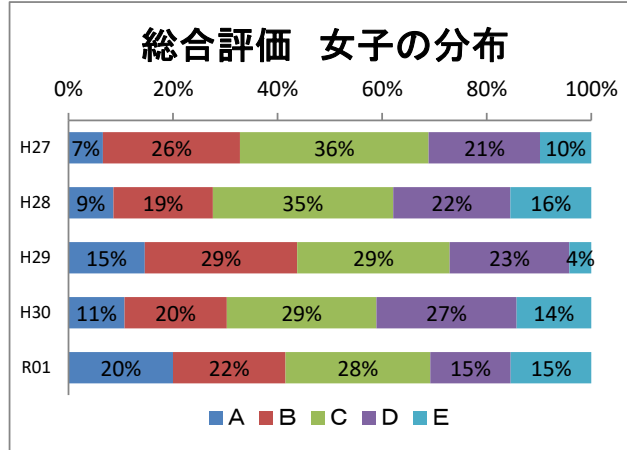
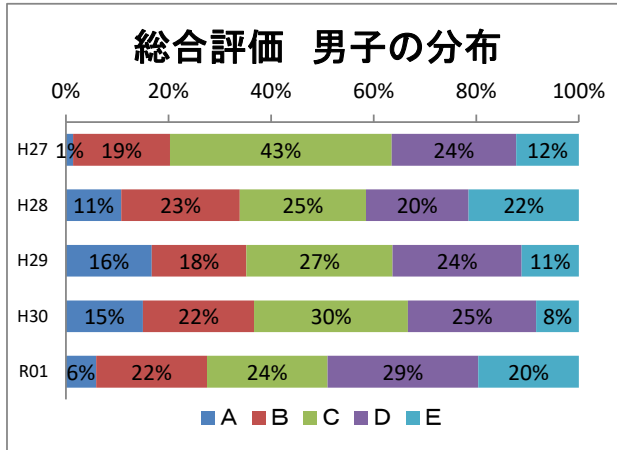
小学生の体力【学校数5校：120名（男子53名、女子67名）】

※数値は少数第1位を四捨五入

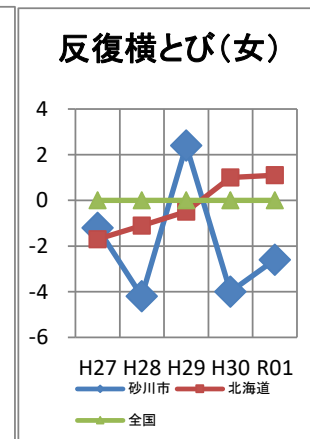
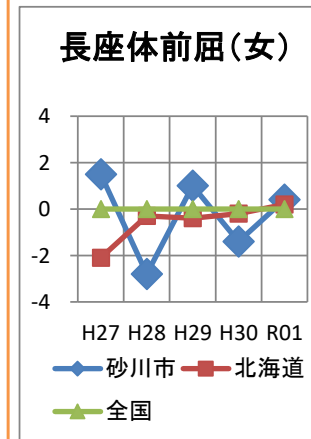
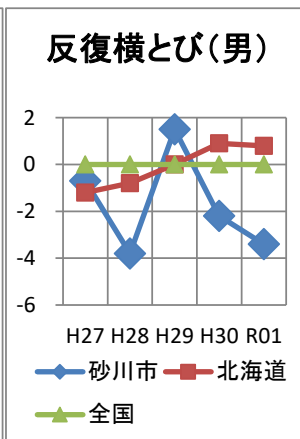
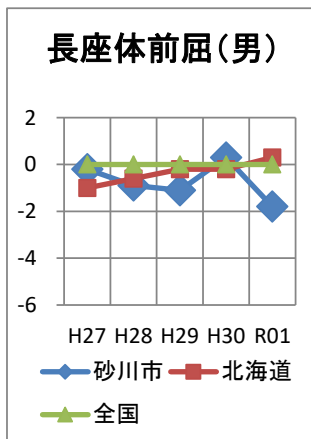
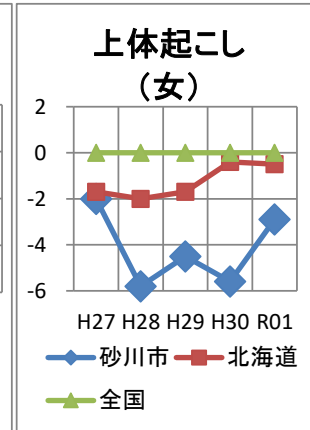
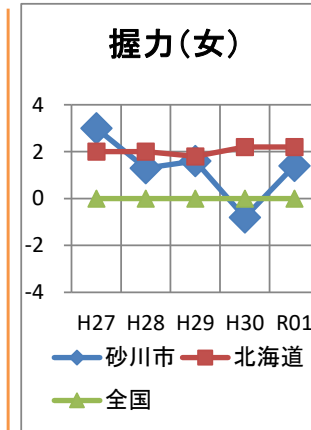
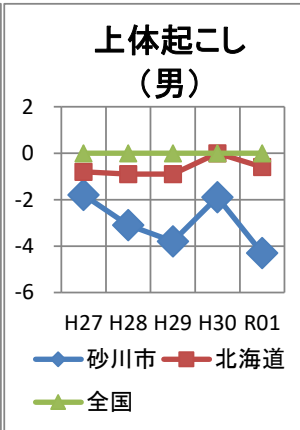
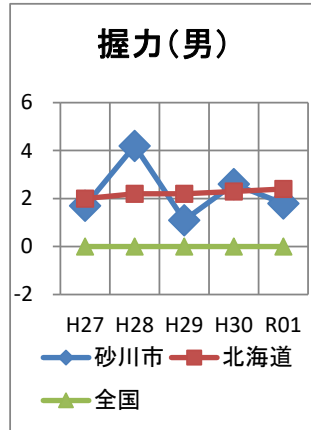
1 体力の合計点【全国平均値との差：経年推移】

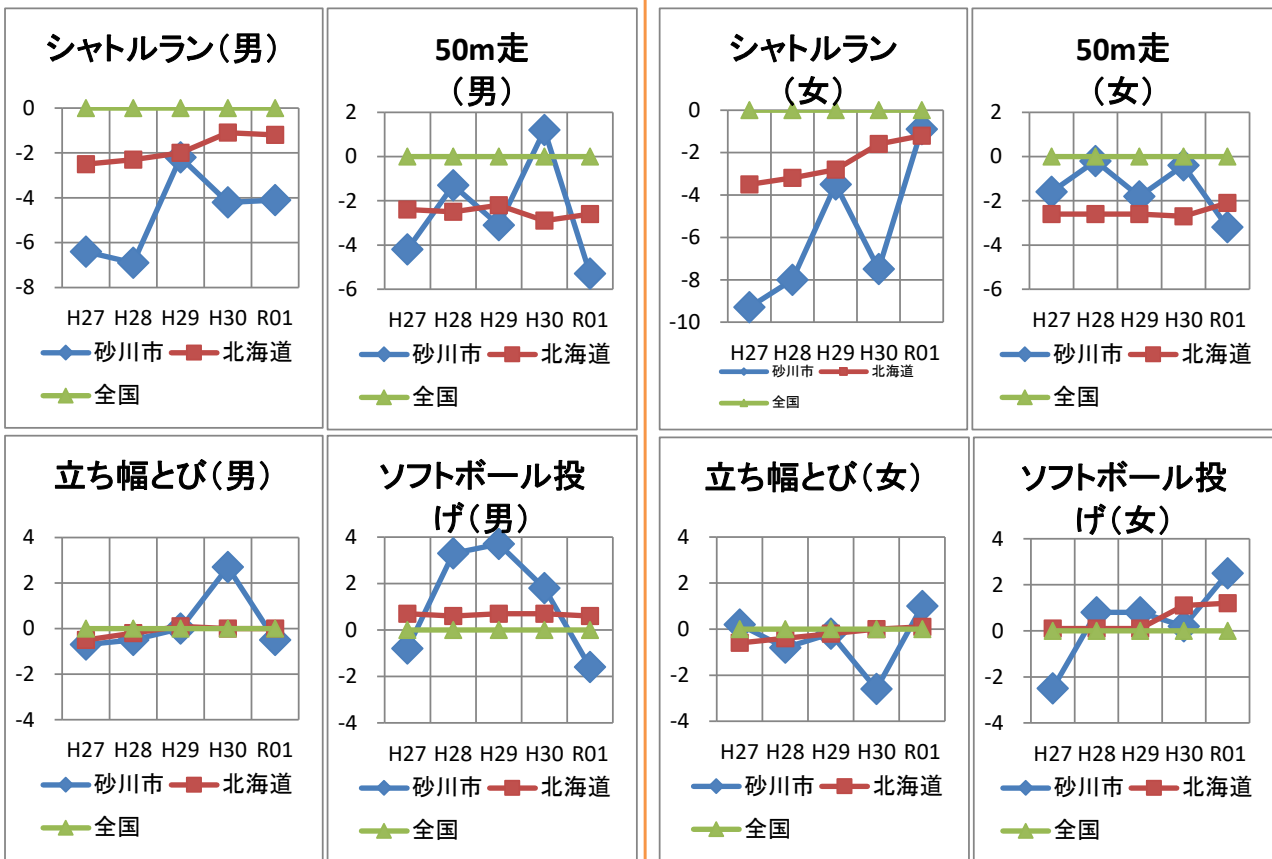


2 市内児童の体力総合評価【5段階評価：経年推移】

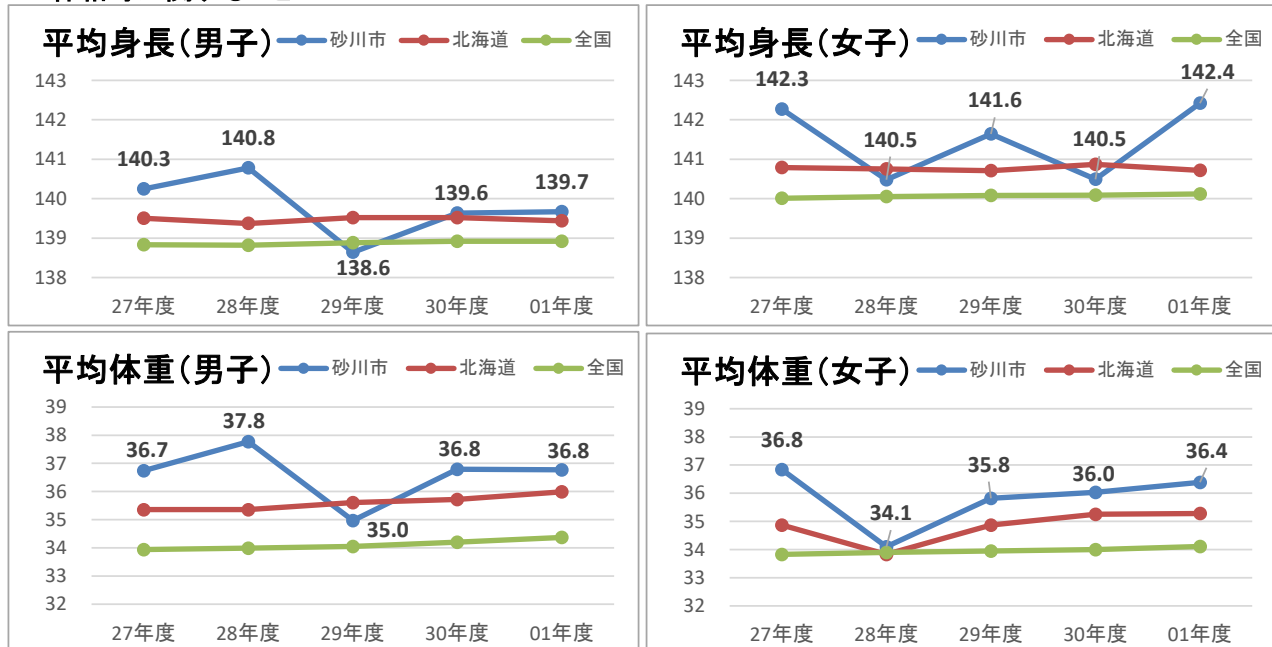


3 各種目の状況【全国を50とした時の偏差値(T得点)との差：経年推移】





4 体格等に関すること



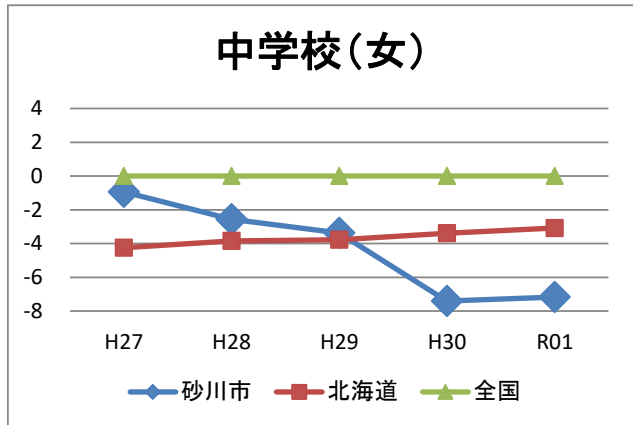
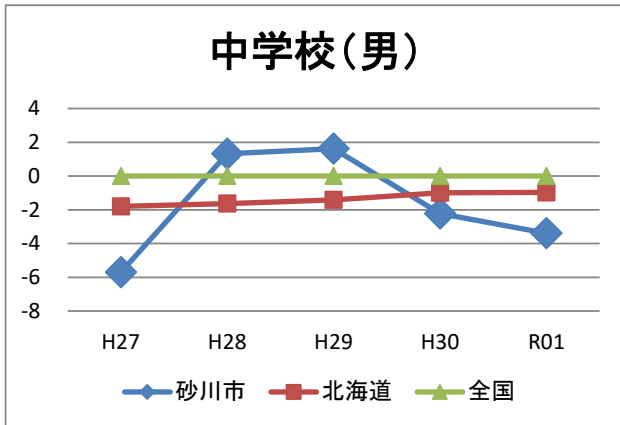
5 分析結果と今後に向けて

- 総合評価では、男女とも全国平均をやや下回ったが、女子は全国平均に近い結果となり、改善が見られた。5段階評価では、男子はAが減りEが増加しており、女子はAが増えDが減っている。
- 男子については、握力で全国平均を上回ったものの、他の種目は全国平均を下回った。昨年度との比較では、シャトルランでわずかに改善傾向が見られたが、他の種目は昨年度を下回った。
- 女子については、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、ソフトボール投げで全国平均を上回った。また、昨年度との比較では、50m走以外の全ての種目で改善傾向が見られた。
- 全体的には、疾走能力が必要である「50m走」、筋持久力が必要となる「上体起こし」、敏捷性が必要になる「反復横とび」に課題があることから、走る運動や敏捷性を付ける運動や筋力を強める運動などを意図的・計画的に体育の授業などにおいて取り扱っていく必要がある。
これまで継続して課題となっていた「シャトルラン」については、男女とも改善傾向が見られたことから、取組の成果があらわれているものと考えられる。

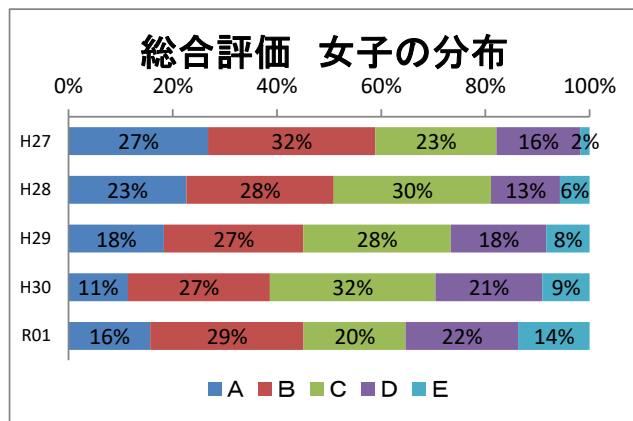
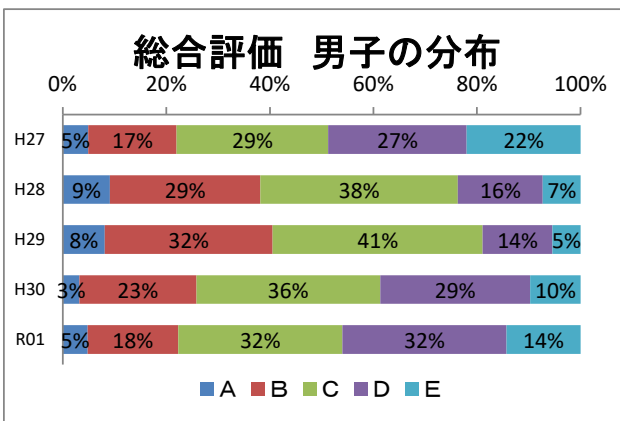
中学生の体力【学校数2校：122名（男子66名、女子56名）】

※数値は少数第1位を四捨五入

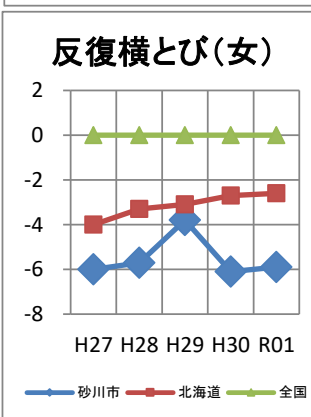
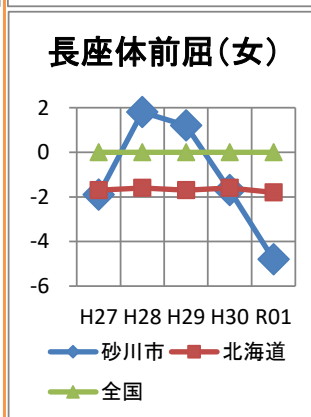
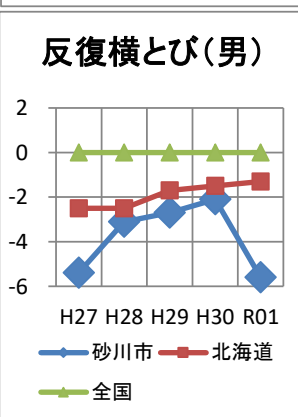
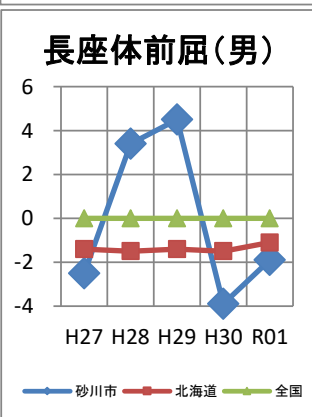
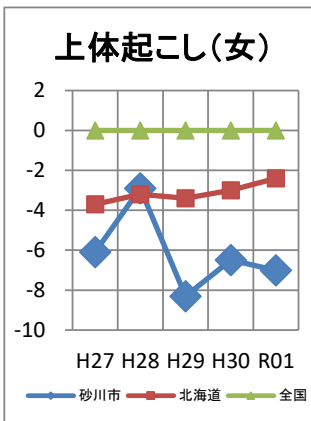
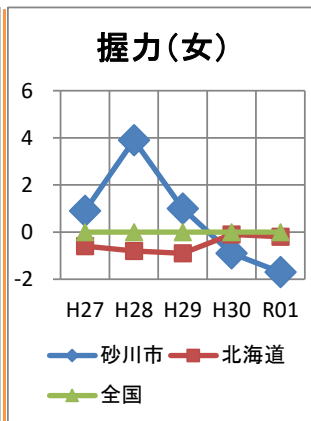
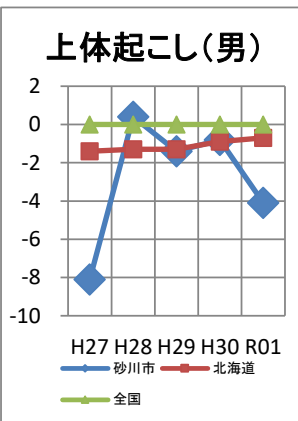
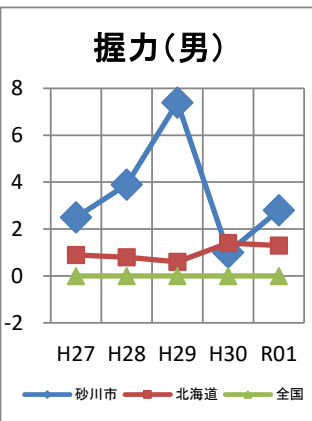
1 体力の合計点【全国平均値との差：経年推移】

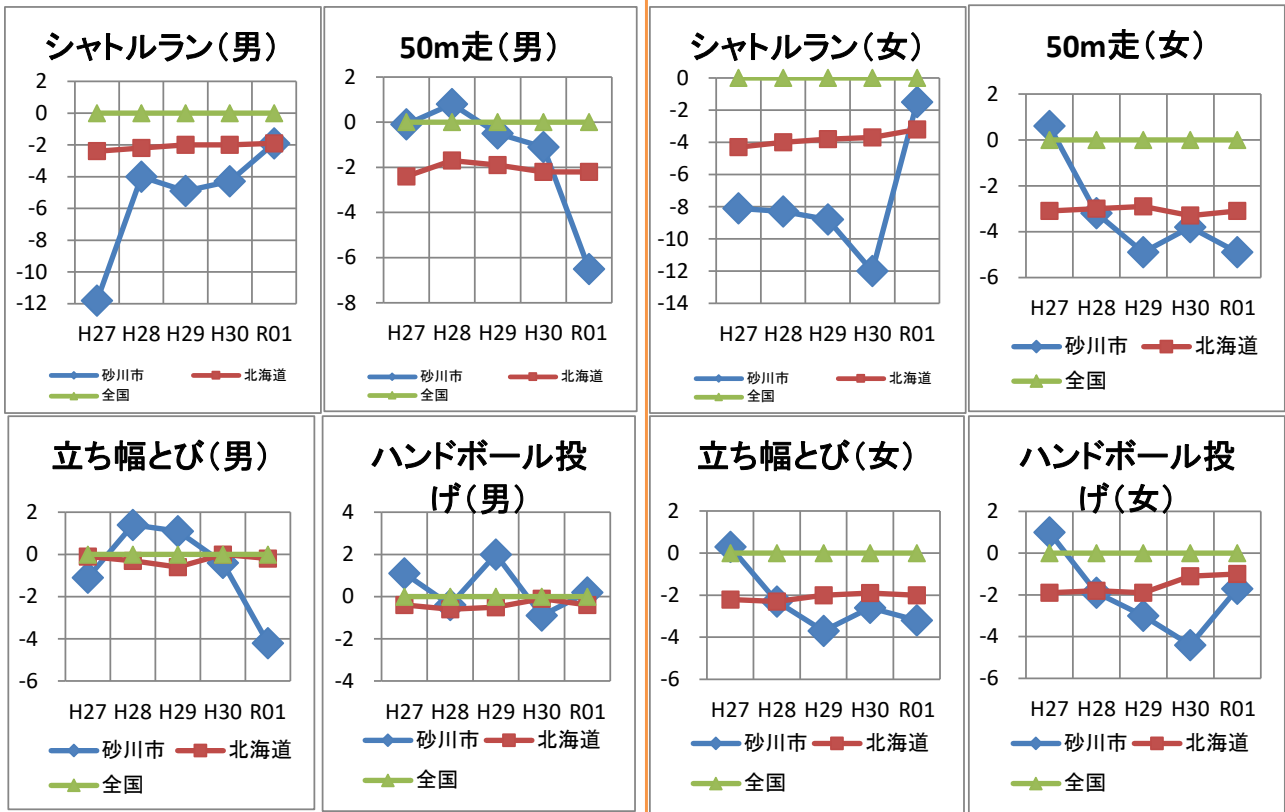


2 市内生徒の体力総合評価【5段階評価：経年推移】

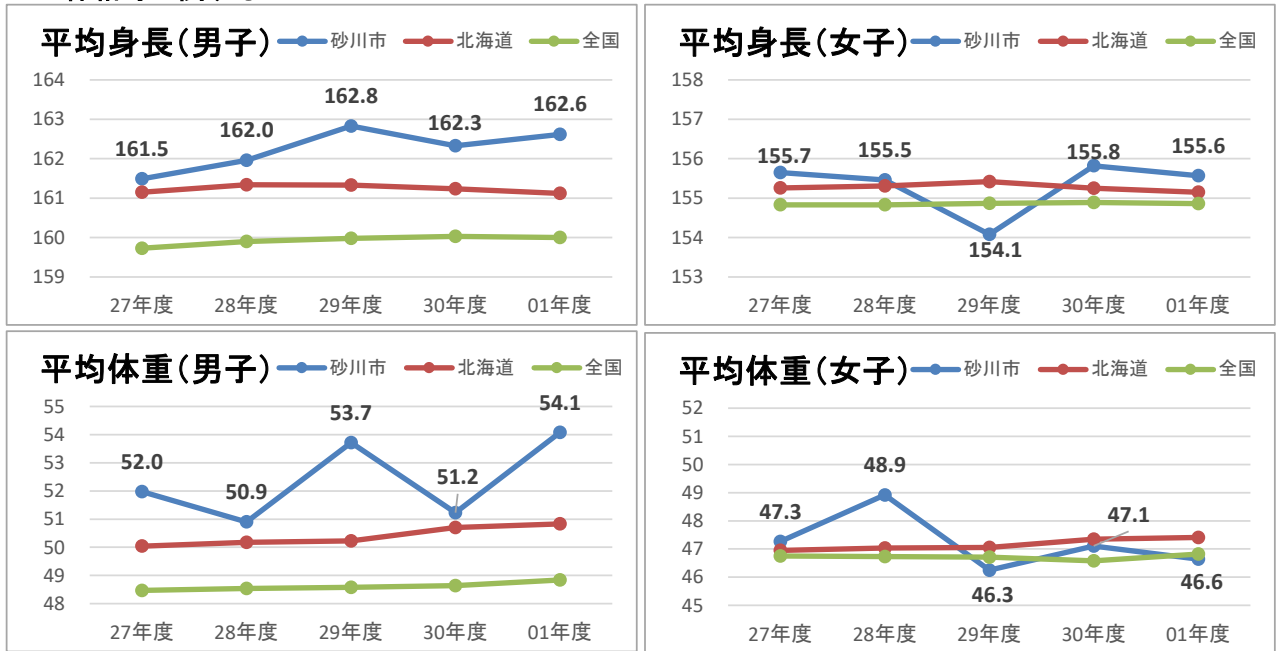


3 各種目の状況【全国を50とした時の偏差値(T得点)との差：経年推移】





4 体格等に関すること

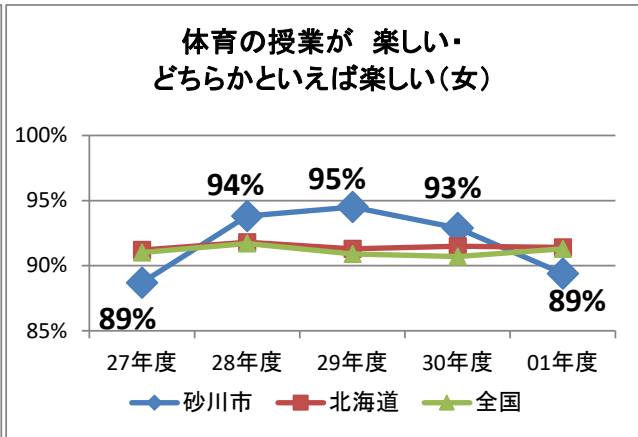
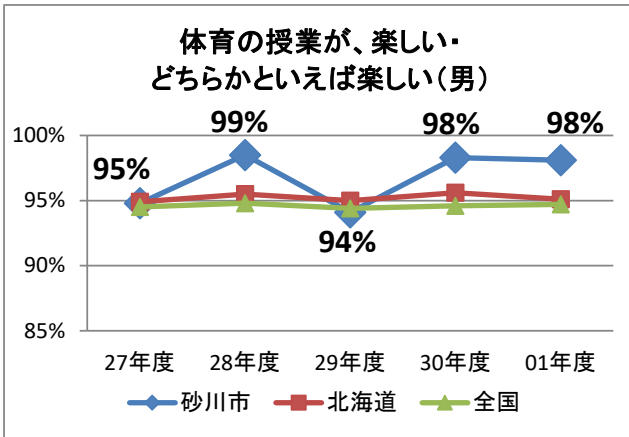


5 分析結果と今後に向けて

- 総合評価では、男女ともに全国平均を下回った。特に、女子は前年度からわずかに改善しているものの、依然として全国平均との差は大きい。5段階評価では、男女ともに若干であるがAとEが増加している。
- 男子については、握力とハンドボール投げで全国平均を上回った。長座体前屈とシャトルランでは改善傾向が見られた。
- 女子については、反復横とび、シャトルラン、ハンドボール投げで改善傾向が見られたものの、全ての種目で全国平均を下回った。
- 全体的には、敏捷性が必要になる「反復横とび」、疾走能力が必要である「50m走」、筋持久力が必要となる「上体起こし」に課題があることから、敏捷性を付ける運動や走る運動、筋力を強める運動などを意図的・計画的に体育の授業などにおいて取り扱っていく必要がある。
これまで継続して課題となっていた「シャトルラン」については、男女とも改善傾向が見られたことから、取組の成果があらわれているものと考えられる。

小学生・質問紙【学校数5校：120名（男子53名、女子67名）】

1 体育の授業に関する意識について



2 体育の授業中、できなかったことができるようになったきっかけについて

男子児童の割合 *複数回答有

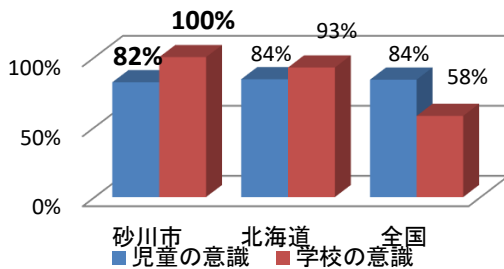
1.授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった	43%
2.授業中に自分で工夫した	28%
3.自分に合った場やルールが用意された	15%
4.先生や友達のまねをしてみた	60%
5.友達に教えてもらった	42%
6.授業中に自分の動きを動画で見た	13%
7.授業外に先生に教えてもらった	15%
8.授業外に自分で練習した	25%
9.授業外に本や動画を見た	23%
10.できるようになったことがない	2%

女子児童の割合 *複数回答有

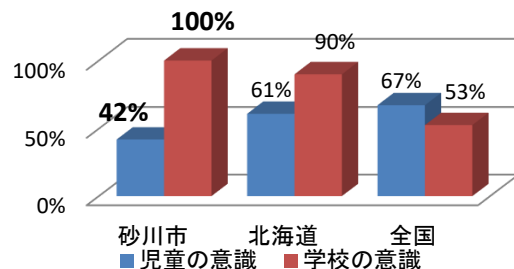
1.授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった	36%
2.授業中に自分で工夫した	26%
3.自分に合った場やルールが用意された	6%
4.先生や友達のまねをしてみた	53%
5.友達に教えてもらった	55%
6.授業中に自分の動きを動画で見た	9%
7.授業外に先生に教えてもらった	6%
8.授業外に自分で練習した	41%
9.授業外に本や動画を見た	14%
10.できるようになったことがない	3%

3 体育の授業の内容について

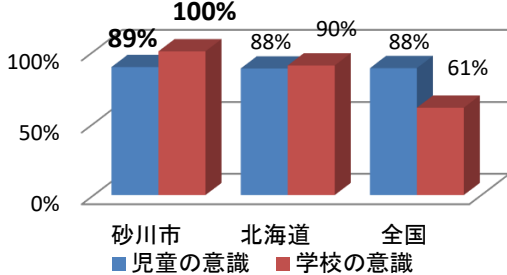
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が提示されている割合(男女計)



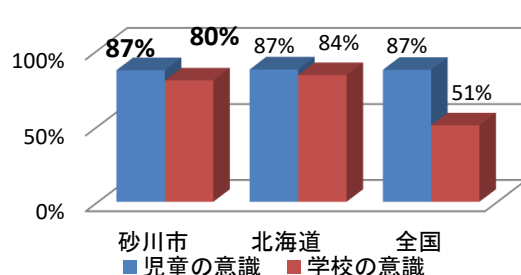
授業の最後に振り返る活動がある割合(男女計)



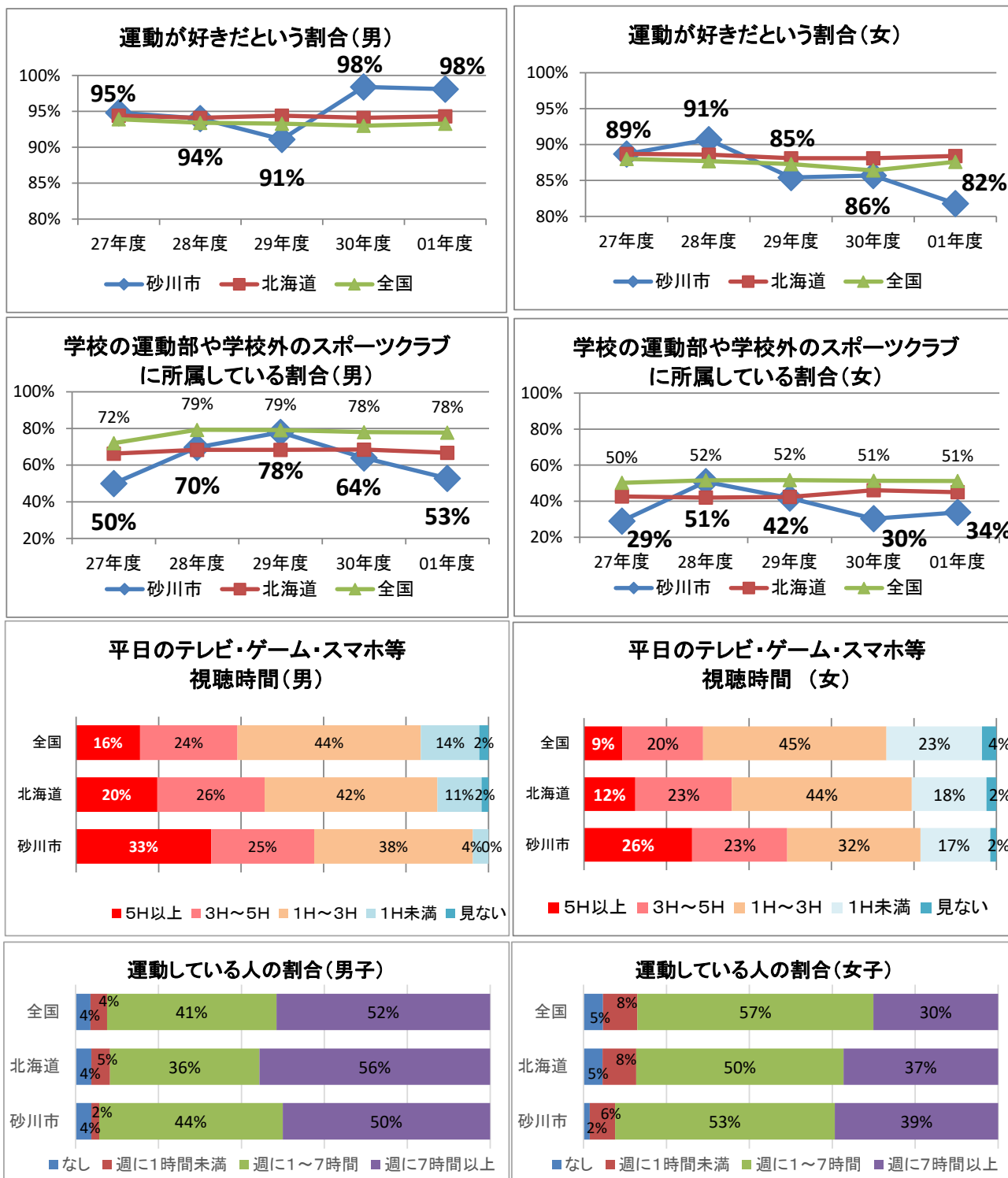
授業中に助け合う活動がある割合(男女計)



授業中に話し合う活動がある割合(男女計)



4 からだを動かす遊びを含めた運動やスポーツ、生活習慣の状況について

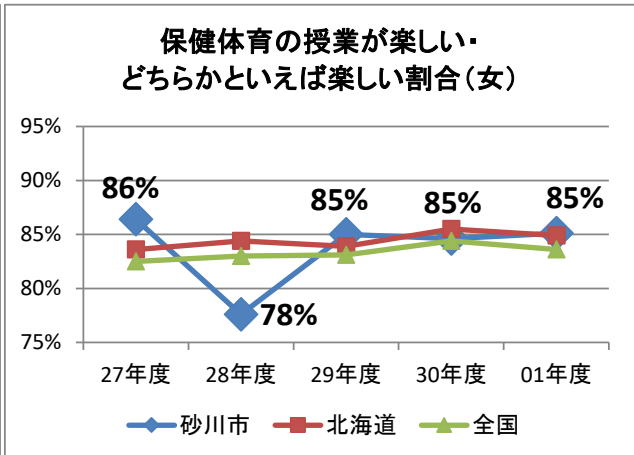
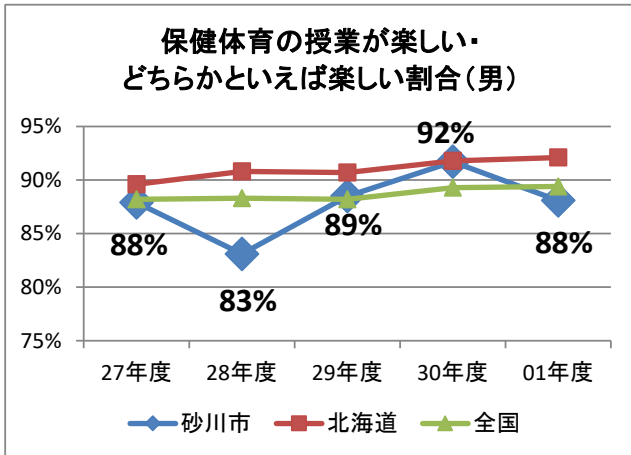


5 分析結果と今後に向けて

- 授業については、「楽しい」という回答が、男子は全国平均を上回っているが、女子については全国平均を下回った。また、「はじめに目標を示す」や「助け合う活動」、「話し合う活動」は全国平均とほぼ同等であったが、「振り返る活動」は大きく下回り、学校の意識との差が顕著であった。前年度に課題となっていた「目標の提示」やI C機器の活用は改善傾向だが、毎時の授業で振り返る活動を持つことが課題である。
- 運動部やスポーツクラブに所属している割合は、男女ともに全国平均を大きく下回っている。また、テレビ・ゲーム・スマホ等を視聴する時間は全国と比較してかなり長い結果になっており、5時間以上の回答は、男子で約2倍、女子で約3倍となっている。運動している人の割合については大きな差は見られないものの、学校と家庭が連携した生活習慣の改善を図る取組が必要である。

中学生・質問紙【学校数2校：122名（男子66名、女子56名）】

1 保健体育の授業に関する意識について



2 保健体育の授業中、できなかったことができるようになったきっかけについて

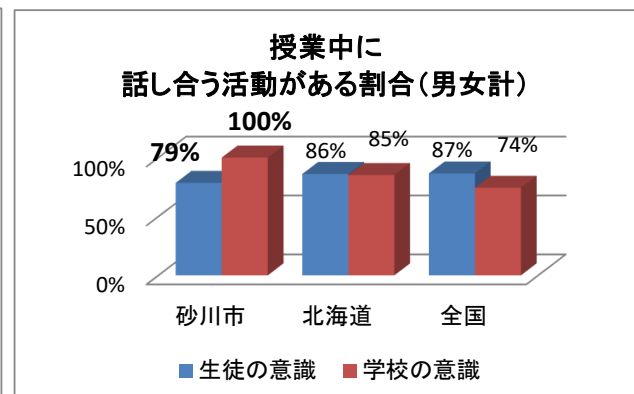
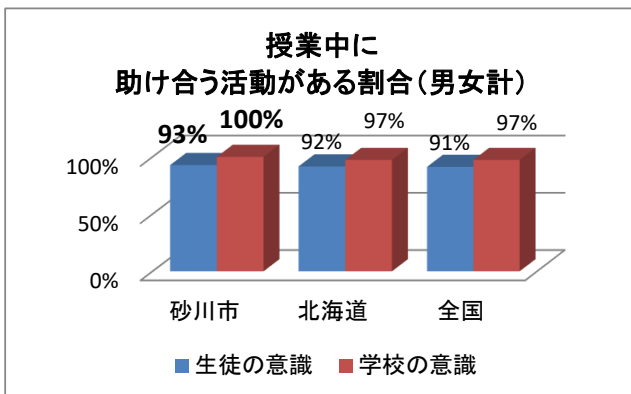
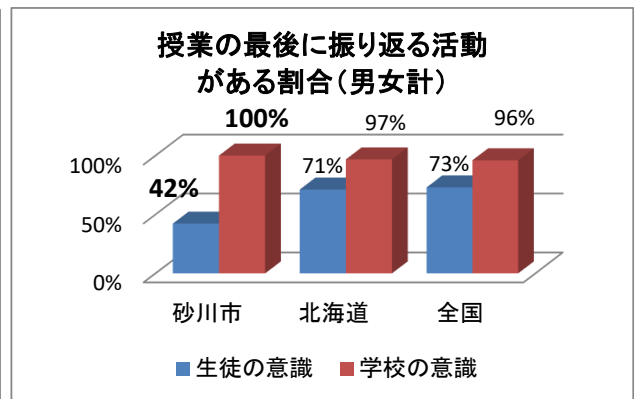
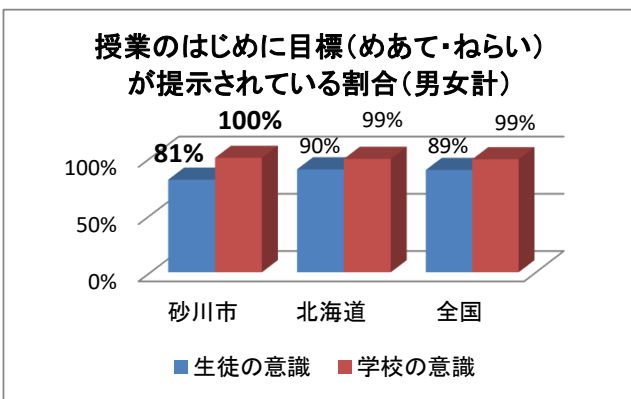
男子生徒の割合 *複数回答有

1.授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった	43%
2.授業中に自分で工夫した	33%
3.自分に合った場やルールが用意された	8%
4.先生や友達のまねをしてみた	42%
5.友達に教えてもらった	58%
6.授業中に自分の動きを動画で見た	0%
7.授業外に先生に教えてもらった	3%
8.授業外に自分で練習した	18%
9.授業外に本や動画を見た	6%
10.できるようになったことがない	5%

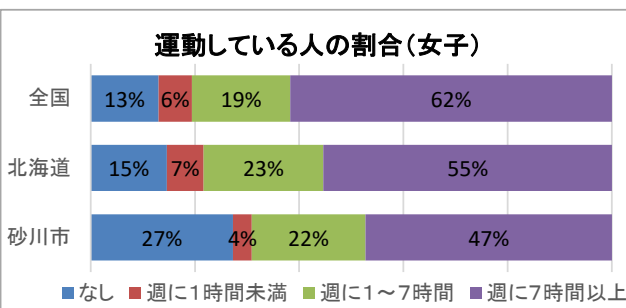
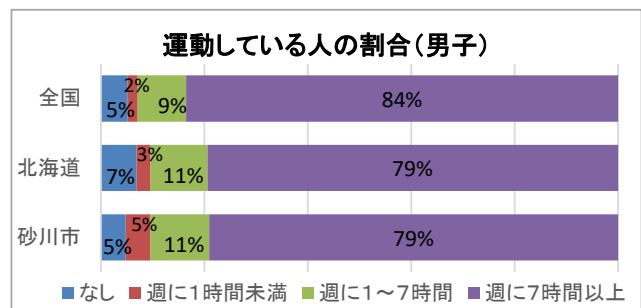
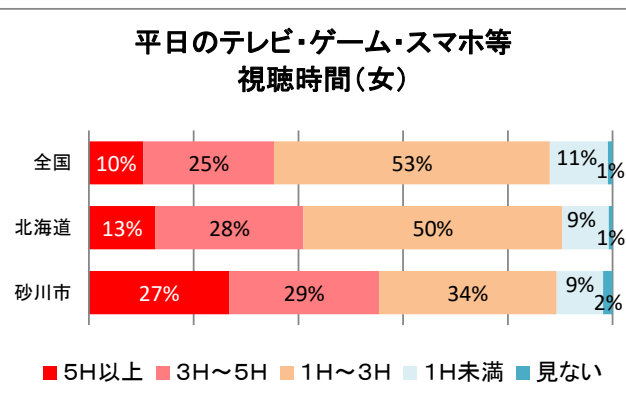
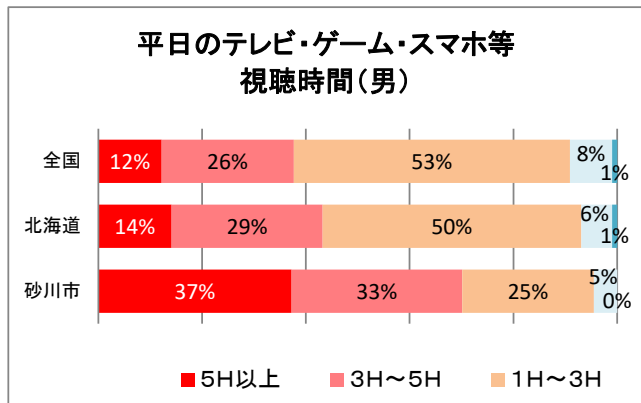
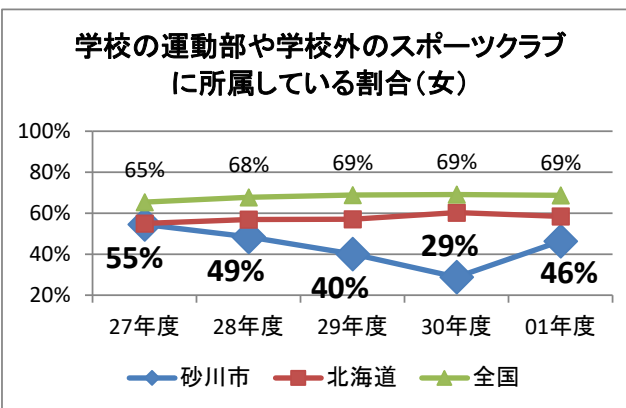
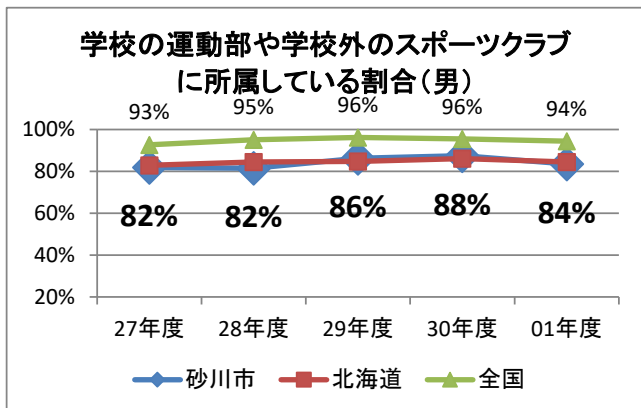
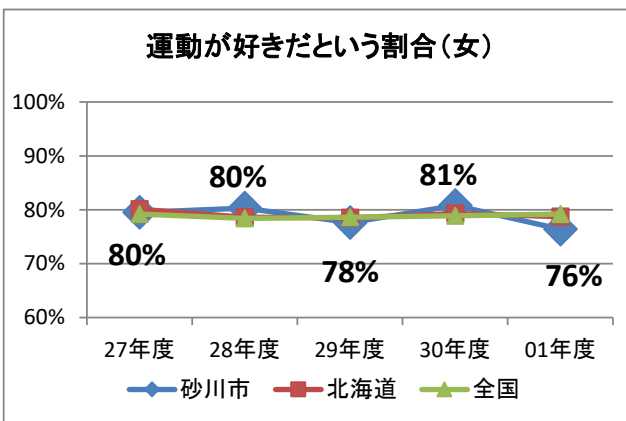
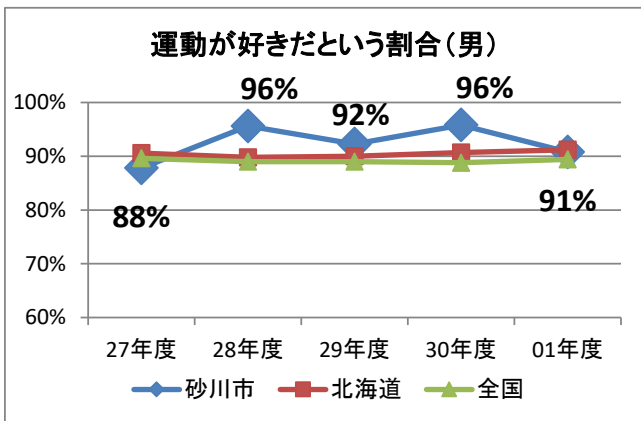
女子生徒の割合 *複数回答有

1.授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった	34%
2.授業中に自分で工夫した	36%
3.自分に合った場やルールが用意された	7%
4.先生や友達のまねをしてみた	46%
5.友達に教えてもらった	70%
6.授業中に自分の動きを動画で見た	4%
7.授業外に先生に教えてもらった	2%
8.授業外に自分で練習した	14%
9.授業外に本や動画を見た	4%
10.できるようになったことがない	2%

3 保健体育の授業の内容について



4 からだを動かす遊びを含めた運動やスポーツ、生活習慣の状況について



5 分析結果と今後に向けて

- 授業については、「楽しい」という回答が、男女とも全国平均とほぼ同等である。しかし、「目標の提示」や「話し合う活動」、「振り返る活動」が全国平均を下回り、特に、「振り返る活動」については大きく差があることから、授業の質的改善が必要である。さらに、ビデオカメラやタブレット等を用いて自分の動きを見るような工夫も今後の課題である。
- 運動部やスポーツクラブに所属している割合は、全国平均と比較して、男子で10%以上、女子は20%以上低い。また、テレビ・ゲーム・スマホ等を視聴する時間は全国と比較してかなり長く、5時間以上の割合は男女とも約3倍になっている。運動している人の割合では、特に女子で全国との差が大きく、学校はもとより家庭・地域と連携した運動機会の充実と運動時間の確保を図る取組を推進していくことが必要である。